

## 主催者挨拶

皆様こんにちは。公益財団法人日本海事センター会長の宿利正史です。

本日の第35回海事立国フォーラムには、この会場にも、またオンラインでも、大変多くの皆様にご参加いただいております。誠にありがとうございます。

また、本日ご登壇をいただきます宮武国土交通省海事局長をはじめ6名の講演者及びモデレーターの皆様には、ご多用の中、海事立国フォーラムにご協力をいただきますことに対し、心から感謝申し上げます。

さて、日本海事センターは、海事分野の中核的な公益財団法人として、海事の振興を目的として、国内外の動向に的確に対応しつつ、専門的な研究調査を行うとともに、産・官・学連携のプラットフォームの役割を果たし、また海事関係団体の公益活動に対する助成や海事図書館の運営を行っています。

これらの活動の一環として、海事分野の現況や直面する諸課題についてご紹介しつつ、日本にとっての海事分野の重要性について広く国民の皆様のご理解をいただくために、2007年より「海事立国フォーラム」を開催しています。

海事立国フォーラムは、例年2回、東京と東京以外の都市において開催しており、昨年は、2月に東京で、10月に北海道苫小牧市で開催いたしました。

昨年2月の第33回海事立国フォーラムでは、「海事産業の強化を展望する」というテーマで、当時の海谷国土交通省海事局長、明珍日本船主協会会長、金花日本造船工業会会長、栗林日本内航海運組合総連合会会長ほか産官学を代表する方々にご登壇いただき、今後の海事産業の強化策に関して活発な議論を展開していただきました。

このフォーラムを通じて、日本の海事産業が直面する様々な課題や海事産業の強化のために今後必要となる取組について、概ね関係者間で認識が共有されましたが、それは大きく捉えて4つの課題に集約できると考えています。

これらの課題については、産官学の関係者が一同に会して徹底的な議論を行う中から有効な解決策を見出し、それを着実に実行に移していく必要があるため、当センターの海運問題研究会の中に新たに「海事産業委員会」を設置し、昨年12月20日に第1回海事産業委員会を開催し、議論をスタートしたところです。今後海事人材問題委員会と連携しつつ、精力的に議論を重ねていく予定です。

さて、本日の海事立国フォーラムでは、昨年2月のフォーラムにおいて、日本の経済社会と国民生活を支える基幹産業・重要社会インフラであり、かつ、経済安全保障の最前線にある海事産業が

直面する課題として共有された4つの主要課題の1つである「海事人材の確保と育成」をテーマとしてとり上げます。

日本の海事産業を支える人材については、その安定的な確保を図ることはもちろんですが、加えて、今後、脱炭素化への対応、海事イノベーションへの対応、洋上風力発電などの海上・オフショア事業展開への対応など、その範囲や質がこれまでと比べて大きく変わることが見込まれています。この課題に私たちはこれからどのように取り組めばよいか、皆様と一緒に考えてみたいと思います。

最後に、本日の海事立国フォーラムへの皆様のご参加に対し、改めて御礼申し上げますとともに、本日のフォーラムが、皆様にとりまして、今後の取組への有益な示唆に富むものとなり、また交流の場として有益な機会となりますことを祈念いたしまして、私のご挨拶といたします。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。